

九手連広報紙

はっけん

2011. 7月号

◀ 掲載内容 ▶

◇第 37 回九州手話サークル連絡協議会評議員会

◇幹部会議

◇第 19 回九州手話サークル連絡協議会研修会

＜評議員会＞

報告者：大分県 武原孝司

6月25日（土）、長崎市（長崎県総合福祉センター）において本会の評議員会が開催され、各県の評議員22名の出席を得ました。

議長には私、大分県武原が選出され議事を進めました。出席者からはいくつかの質問がありましたが、22年度事業及び決算報告、23年事業計画及び予算案の議案は原案どおり承認されました。特に沖縄県手連設立に向けた取り組みについては、今年の2月5～6日に沖縄に来訪し、参加サークルと活発な意見交換が行えたこと等の報告がありました。また、全国的な意見交換会実現への働きかけについての報告が行われ、今年度も継続的活動を行うことが確認されました。

また、各県から選出された23年度の新役員についても承認され、宮崎県、大分県の理事交代がありました。会長には大分県の中元教博氏が引き続き選出されました。（新役員については、下記を参照してください。）

議長という大任を任せられ、緊張して臨みましたが、無事終わることができホッとしました。皆様のご協力のおかげです。ありがとうございました。おかげさまで、夜の懇親会では安心して飲むことができました(笑)

＜23年度新役員＞

会 長 中元 教博（大分）

副 会 長 谷脇 章子（長崎）
祐下 明（福岡）

理 事 祐下 明（福岡）
辻田 亜紀（佐賀）
谷脇 章子（長崎）
森 保夫（熊本）
出森 俊郎（鹿児島）
平野 敏江（宮崎）
川浪 勉（大分）

監 査 （大分）
（宮崎）

事務局長 前淵 洋一（熊本）

顧 問 村本 宗和（熊本）

「継続と定着」

九州手話サークル連絡協議会
会長 中元教博

平成 23 年度のスタートに当たり、ご挨拶を申し上げます。

まずは、九手連も 38 年目に入り、ますます各地域における皆さまの積極的な活動に敬意を表すると共に、皆さまのご理解とご協力に対し深く感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、私達は平成 16 年に 30 周年を迎えるに当たり「九手連指針」を制定し中長期の活動の考え方を提示しました。現在、皆さまも御承知

のように、その指針に沿って活動を行っております。

私達は「九州は一つ」というスローガンの下、九州各県の資質向上と強化を目指すと共に、九州各県手連と相互の連携を図り、そして聴覚障害者の生活と権利を守り、その福祉に寄与することを目的に活動を行っています。また、自らが実態を把握し、問題・課題を皆さんと確認しながら「内から外へ」「静から動へ」活動を展開してきているところです。

この1年は「継続と定着」を考えていきたいと思っています。活動の原点は手話サークルにあります。サークル活動の発展・拡大なくして、私達の願いは実現しないと考えます。

そのためには、理事会を中心に対話と議論を重ね、一歩ずつ前進して行きたいと思っていますので、更なるご理解とご協力をお願いいたします。

〈幹部会議〉

報告者：大分県 佐藤タツエ

今年の幹部会議のテーマは、①サークル運営について②研修会内容と計画のあり方について、でした。

話し合いの題材として大分の県手連の運営、研修会の内容について報告があり、それを基に各県の運営方法、取り組み方を話し合いました。

運営費については、補助金で賄える県や1,000円位の運営費で活動している所が数県ありました。また、運営費は大分と同じ位で、それを補助する為多くの団体（100団体）と競合し補助金をもらっている県の話は感心しました。



(活発な意見交換が行えました)

運営については個々の取り組みがなされ、県手連を組織化し各理事が研修部 組織部 企画部 広報部に所属し活動をしている県もあれば、離島を抱える県は理事会に参加してもら

うのが難しい面があり、他県と違う問題を抱えていました。(船等を使う為、交通費が多額になる)

今回の幹部会議も、ただ会議に出て人の話を聞くだけでなく、参加型の研修会でした。他県の現状を聞く事で大分の県手連の活動に生かしていけたらと思いました。

〈第19回九手連研修会〉

今回は、「マスメディアと私」と題して、宮本まどか氏に午前の講演を行ってもらい、「ろう運動の過去と現在、そして未来へ—手話サークルの関わり方—」と題して、本村順子氏（九州聴覚障害者団体連合会手話通訳対策部長）に午後の講演を行ってもらいました。

報告は、長崎県、熊本県の参加者に行ってもらいます♪

「これを機会に」

報告者：長崎県 長与 M.A

手話サークルに入ってまだ3年目の私は、九手連研修会に初めて参加しました。もちろん、講演して下さった2名の講師のお話を聞くのも初めてです。

宮本まどかさんの講演。またご自身のお話を誇りも持って話せる強さ、まさに生きる力を強く感じました。これを機会に研修会、学習会などできる限り参加し、たくさんの方と出会い、自分自身を高めていきたいと思った1日でした。



(研修会場は満員でした♪)

「あっという間の2時間」

報告者：長崎県 吉井 I・T

宮本まどか氏の講義はとても魅力があり、NHKに出るようになったきっかけや、内部事情などここだけの話として嫌味がなく、あっさりと言われていました。また、母として、妻としても大変だったろうと思いますが、NHKの出演を続けて来られた事に感激し、あっという間の2時間でした。

これからも奢ることなく手話に関わって行きたいと思います。とても、勉強になりました。台風の中、準備等々スタッフの皆様お疲れ様でした。

以上、長崎県より参加したお二人から感想をいただきました。上品なたたずまいから発せられる言葉とのギャップに驚きながらも、自分の生立ちをジョークを交えながらさらりと話される話術には、感心しました。さすが、メディア経験者、参加者全員が話に引き込まれていたように思います。

「話愛」が必要

報告者：熊本県 織田綾子

「マスメディアと私」

講師：宮本まどか氏

書籍「聴こえないピアニスト」の中に、「苦」という言葉が最近、好きになった。「苦勞は覚悟していれば、気持ちが楽になるから」。二時間の講演では「強」を非常に感じましたが、この文章を目にしたときは「弱」を感じました。生まれつき耳が不自由なこと、ピアノのこと、うつ病になったこと、NHKのキャスター時代のこと、テレビ界の裏話などなど、時間がアツという間に過ぎました。手話を使ったドラマのお話もあり、私の時代は「星の金貨」ですね。私が手話を学ぶきっかけはドラマではありませんでしたが、ドラマを見たからというのが結構あったのです。ちなみに、天草の養成講座の講師は「天草の豊川悦司(?)」です。最後に、長崎弁「おもやい」を紹介されました。「一緒」という意味だそうです。



(ユーモアを交えて語る、宮本まどか氏)

「ろう運動の過去と現在、そして未来へ

—手話サークルの関わり方—

講師：本村順子氏

資料の中に、「現在の大きな問題は、・・・若者が新しい考え方が出来ず・・・」とあり、少し悔しいと思いました。また最後のところには、「『手話サークルに関する指針』について学び、手話サークルの活動の在り方を正しく理解し、目的を具体化することが大切。手話を学び、手話サークル活動を行う者が、ろうあ者との関わりをもつ中でどの様な役割があるのか？一緒に考えてほしい。」とありました。我がサークルでも是非「話愛」が必要であると思いました。



(ご自身の体験を交えて語る、本村順子氏)

編集後記

・・・暑いですが、扇風機は回していますが、熱風です(笑)昨年11月末に引っ越しをして、初めての夏を迎えています。今年はクーラーを使わずにどこまで耐えられるか挑戦です！昨年は5月より18℃設定で寝る習慣の私でしたが、7月末現在エアコンは使用していません♪2階ということもあり、風が通るので助かっています。電気代が節約できますが、その分、飲み代が増加しております・・・。

今年は皆さんも節電、エコに取り組んでいると思いますが、体が大切ですので、無理せず取り組みましょう♪

九州手話サークル連絡協議会

(事務局) 〒866-0892

熊本県八代市古閑下町1717-43

前瀬 洋一 Tel0965-35-2653

発行責任者：中元 教博

広報担当者：川浪 勉 (大分)

発行年月日：平成23年7月31日